

教職課程専門科目「社会」の学修内容について

— 「令和の日本型学校教育」の構築を目指すために —

三藤 あさみ

1 問題の所在

1-1 「令和の日本型学校教育」における教員養成の課題

令和3年1月中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して』によると、急激に変化する時代においては、まず新学習指導要領の着実な実施が求められている。資質、能力を育成することに重点を置いて進めることが重要としている。

一方、課題として取りあげられていることの1つに「教師の長時間勤務による疲弊や教員採用倍率の低下、教師不足の深刻化」がある。

より良い教育の実現のためにはその指導者となる教員の能力が確かであることも重要な要素である。それにも関わらず現在、教員が疲弊しているうえに、教員が不足する事態となっていることは由々しいことである。

このような課題がある現在、教員養成における教科指導法の授業はどのようにしていくべきなのか実践をとおして考えたい。

1-2 今後に期待される教員像とは

今、期待される教員像について、埼玉県が示している育成指標を基に考えてみたい。採用前の教諭の「学習」に関する項目に次の資料1のような内容が示されている。

【資料1】「埼玉県校長及び教員としての資質向上に関する指標 教諭」より抜粋

＜キャリアステージ 採用前 B 学習指導＞

教科に関連した学問的知識や専門的技術を磨き、教育要領・学習指導要領の目標を理解し、指導に生かすことができる。

「主体的・対話的で深い学び」の重要性を理解し、授業等の目標と指導の展開を踏まえた学習指導案等を作成することができる

最初に、教科に関連する知識や専門的技術を確実に身に付けることが示されている。そのうえで学習指導要領等の目標を理解し、授業づくりのイメージをもって、学習指導案を作成できるようになることが期待されている。

教員養成の段階においてはまず、授業実践に必要なことをイメージできるようになっておくことが大切だろう。

1-3 採用試験の状況について

埼玉県のHPの「令和6年度埼玉県公立学校教員採用選考試験結果」ⁱⁱによれば、小学校教員の合格者倍率は1.9倍である。前年度の1.8倍よりは上昇したものの、いずれも低倍率と言えようⁱⁱⁱ。

さらに合格人数の詳細^{iv}を見ると、小学校教員では第1次試験の合格率は9割を超えている。これから考えると、筆記テストや集団面接によって専門的知識で選抜するというよりも、第2次試験で行われる個人面接、集団討論でその人となりや評定する方を重視しているのではないかと思う。小学校では、学級担任がほぼ1日学級の児童と関わるため、その価値観や人格は大きな影響がある。そのため個人面接等では子供たちが親しみをもてる先生になれる人かどうかの観点も重要である。

しかし、着任時した時に学習指導に必要な知識が定着しているかどうかは測りきれないようなにも思う。現在の志願者が少ない状況では選考時に教科等の専門知識の理解を高い水準で求めるのは厳しい状況なのではないだろうか。

1-4 養成段階における課題

筆者の学科における小学校社会科教育に関する講座で課題と感じることは、入学の段階で学生が社会科に関する知識や関心が低い学生が多いことある。

この原因の1つは、今年度まで学科の入試科目に社会系の科目を選択して受験することが無かったことであると思う。その教科が好きか、嫌いに関わ

らず大学入試で必要な科目となれば、合格するために知識を確実に理解しようと、学習する機会が多くなるだろう。

しかし、その機会をもたずに入学した学生も教職課程の必修科目を受講することとなる。その講座の中では小学校、中学校で頻出する事象や概念に関する知識は、ほぼ身に付いていることを前提にしていることは言うまでもない。しかし、授業中の様子を見ていると、毎回の取組みの内容を難しく感じている学生も少なくないようである。知識が足りないことで初めからつまづいてしまうと、今後の講座で行う授業づくりにも支障が出るのが予想される。2年生が受講する本格的な授業づくりの講座に向けて、今一度知識を思い出ししておく必要がある。

1-5 専門的な知識の重要性

社会科について専門的な知識を身に付けておくことが重要であることを学習指導要領の目標等から確認したい。

小学校の社会科の目標の冒頭には「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す」とある。この中の「社会的な見方・考え方」とは「小学校社会科、中学校社会科の各分野の特質に応じた見方・考え方の総称」であり、小学校社会科においては、『社会的事象の見方・考え方』を働かせ、学ぶことを重視する必要がある。」^{vi}としている。

そして、『社会的事象の見方・考え方』は、『位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して(視点)、社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること(方法)』と考えられ、^{vii}している。

この中にある位置や空間的な広がりとは地理的な知識を基にして考える必要がある。また、時期や時間の経過を視点として比較することは歴史的な事象を考える際に効果的な方法である。

見方・考え方を働かせるためには社会科の場合、その対象となる事象に関する知識をある程度先に身に付けておく必要がある。当然、教師もその授業で

理解させるべき事象を事前に熟知しておく必要があり、少なくとも教科書で扱われている社会的事象に関しては大まかにでも把握しておくべきだろう。

しかしながら、前出のように大学入学時には、小学校の教科書で扱われる内容について記憶が薄れている学生の方が多いと感じている。

教師の知識が不足していたり、誤解したりして理解していれば、子供たちの学びは目標の実現からかけ離れたものになることが明白である。

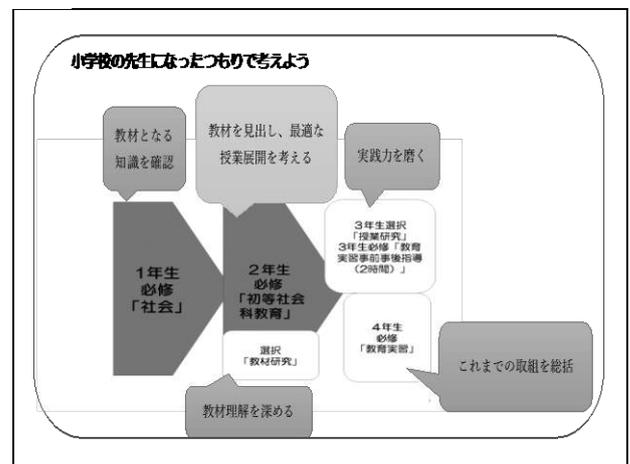
そこで、まず1年生で必修科目となっている社会科指導に関する科目の「社会」においては、小学校社会科を指導するために必要な知識を確実にすることを試みた。次章でその方法や経過を報告したい。

2 実践した授業について

2-1 授業の概要

実践した授業は、本学児童教育学科1年生対象が中心で他学科へ開放している講座で、2023年9月から2024年1月までの15回で行った。

図1 教職課程科目における「社会」の位置づけ説明図



受講者は55名で、授業の流れは次の表1のとおりである。

この授業は児童教育学科の学位授与方針(ディプロマポリシー)項目①「3.教科用図書の内容を十分理解し、分かりやすく学習内容や学習活動を組み立てるとともに、子どもの質問に的確に応えることができる」に該当する。

1回目の授業では図1を用いて、児童教育学科における社会科教育に関する授業全体を俯瞰して、身につけてほしい知識や方法を説明した。特に社会科指導のために必要な知識を教師の立場からどのよう

に理解しておくべきか、考えさせる取組みを設けて進めることにした。さらに、これまで自身が身に付けた社会科に関する知識を再確認する必要を説明した。到達目標は次のとおりである。

1	・授業の進め方について ・社会科のあゆみ及び社会科の目標確認
2	・学習指導要領について・学習指導要領の目標及び内容確認①(3年生を例に) ・小学校社会科の学習で大切なこと、教師に必要とされる知識
3	・学習指導要領について・学習指導要領の目標及び内容確認①(4年生を例に) ・小学校社会科の学習で大切なこと、教師に必要とされる知識
4	・学習指導要領の目標及び内容確認②(5年生を例に)及び教師に必要とされる知識 同上 その3
5	・学習指導要領の目標及び内容確認③(6年生を例に)及び教師に必要とされる知識
6	・今後の取組み内容及び方法：テスト問題の作り方について
7	テスト問題の作り方及び分担(班ごとに) ※クイズ作問準備レポート①作成
8	テスト問題作成及び解説準備(班内の個人作業中心) 1
9	テスト問題作成及び解説準備(班内の個人作業中心) 2 ※出題クイズレポート②作成
10	班ごとの発表 1 5年(1) 我が国の国土の様子と国民生活 (2) 我が国の農業や水産業における食料生産
11	班ごとの発表 2 5年(3) 我が国の工業生産 (4) 我が国の産業と情報の関わり (5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連
12	班ごとの発表 3 6年(2) 我が国の歴史上の主な事象(古代～中世)
13	班ごとの発表 4 6年(2) 我が国の歴史上の主な事象(近世～現代)
14	班ごとの発表 5 6年(1) 我が国の政治の働き (3) グローバル化する世界と日本の役割
15	グループ発表予備日 授業振り返り及びおさらいテスト

1 小学校社会科の学習指導要領の変遷や現在

の学習指導要領の目標及び内容を把握し、各学年の学習の意義と重要性を理解して説明できる。

2 小学校社会科の学習指導要領の目標及び内容のポイントを理解して、その内容を児童にもわかるように表現することができる。

3 課題について仲間と共有して、他の考えを受け入れたり、自分の考えを発表したりして、意欲的に考えを深めることができる。

2-2 授業の流れ

1 回目では社会科がつけられた経緯について講義した。

2回目から5回目では、小学校3年生から6年生まで学年ごとに、学習指導要領の目標の3つの柱を意識して「理解することは何か」「身に付ける技能はどのようなことか」「育成する力は何か」「養う態度は何か」等を問いながら、それぞれの項目を具体的に抜き出して確認した。

目標と、内容について大まかに確認した後、子供たちが使う教科用図書を貸し出して、実際に取りあげられている教材や資料にはどのようなものがあるのかを認識できるようにした。自身が小学生として学習した頃を思い出して、懐かしそうに見入る学生も見られた。

そして今後、教育実習なども含めて「もしこの学年の単元で授業を行うとしたら、先生としてどのような準備をしておく必要があるだろうか、何を理解しておくべきだろうか」と問いかけつつ進めた。

例えば、3年生の内容(1)「身近な地域や市区町村の様子について」を指導する場合、教科書には自身の授業をする地域の教材は掲載されていない。そのため、授業づくりには教師自身が赴任した地域の様子を把握して理解し、授業にふさわしい教材を準備する必要があることを伝えた。もちろん、その自治体ごとの副読本も準備されているが、教師がその地域に住む児童以上に地域について熟知している必要があるからだ。

また、5年生の内容「(1) 我が国の国土の様子と国民生活について」のイの項目の(ア)には、「世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着

目して、我が国の国土の様子を捉え、その特色を考え、表現すること」とある。子供たちが国土の様子を理解したうえで、日本の国土の特色と言えることはどのようなことがあるのかを表現できるようにするためには、まず、教師が世界の大陸や海洋の位置と名称とその中で日本の位置、近隣の国々等の知識を確実にしておく必要があることを伝えた。

この授業全体をとおして、社会科のいわゆる重要語句のみを覚えさせるというような、詰め込みを行う授業を行うことが目的ではなく、現在の学習指導要領の目標にもある資質、能力を育成するための授業づくりが求められていることを強調した。

そして、子供たちに社会科に関する知識を使いこなして思考したり、表現したりできるような学習指導を行う教師になるためには、教師自身が社会科に関する事象や概念について正確に把握しておくことが不可欠であることを伝えた。

容の説明をした。

学生たちに小学校5年生、6年生の学習の内容を大きく5つのまとまりにして示した。そして学科の入学時に出席番号等で決めた12〜3人の5つの班を中心にそのまとまりごとに割り当てて、クイズを作り、発表するという演習であることを伝えた。

各班では分担された内容それぞれにあてはまる学習指導要領の目標や内容を再度確認し、教材として取りあげるべきだと考える重要な事象や語句を吟味して選び出す。そして、重要語句がクイズの解答になるように問題を考えるという準備に取り組む。班内で協力して行うが、1人1回は教師役として出題のための発表を行うことにした。そして、他の班が教師役の日は子供役として解答するため予習しておくように伝えた。

資料2のレポートを完成させた後、資料3のモデルレポートを示した。これは資料2でそれぞれが考えた複数の出題内容を他の班員との重複があれば調整し、各自が選択した2題に関する本番の読み原稿にもするためのレポートである。

このレポートではさらに、出題して子供役が答え後に発表する解説の内容とそれに関連して教師として何を理解しておくべきなのか、についても考えさせることにした。

この2つのレポートを作ることによって自身の小学校、中学校の学びの記憶を蘇らせて明確にしたり、新たに知識を得ておく必要性に気づいたりする学生が多かったように思う。

また、完成したレポートはただ、読み上げるのではなく、教師として教壇に立ったつもりで対面する子供たちにふさわしい振る舞いや話しかけ方などもイメージして取り組むように伝えた。

【資料2】

2023年度 社会 クイズ作問その①レポートの例 2023.10.25 資料

※11月6日中に完成させて、提出すること(期日厳守) UNIPALレポート機能にて
◎班 学籍番号△☆☆ 氏名 三藤 あさみ

※学習指導要領の内容から選ぶ→教科書を見て実際の内容を確認する。

1 4年 単元(1) 都道府県(以下第2章第2節において「県」という。)

2 元になる学習指導要領の内容：(p169 参照:そのまま記述)

(1) 都道府県(以下第2章第2節において「県」という。)の様子について、学習の問題を追及・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 (ア) 自分たちの県の地理的環境の概要を理解すること。また、47 都道府県の名称と位置を理解すること。
 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 (イ) 我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現すること。

3 21の「内容」で、児童の学習のために教師として覚えておくべき大切な内容
 (2の内容から抜き出して良い)

- ・ 47 都道府県の名称と位置
- ・ 自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置

4 31の内容の知識を身に付けるために作ると良いと思う問題例(埼玉県先生として)
 (下書きとして2問以上つくる。今回は口頭で発問、解答して伝わるような答えを考える。次のレポートで実際に出題する形に整えて提出)

問1：埼玉県は何地方にありますか。 答え：関東地方

問2：埼玉県の県庁所在地はどこですか。 答え：さいたま市

問3：埼玉県の農産物の産出額が(2021年現在)全国で一位のものは何ですか。
 ※最新の統計データで確認すること。 答え：さといも

問4：埼玉県小川町で1200年前から続いている伝統工業は何ですか。 答え：和紙づくり

※なるべく多く、問題(の候補)を考えてください。

2-4 知識を確認するための発表会

前述のような準備のための取組みをして、授業の10回目から5回にわたり「クイズ大会」と称し班ごとに先生として子供役に問題を出すということを中心にした発表会を行った。

子供役として解答者になった日は、単に応答するだけではなく、教師役の振る舞いや話し方などについて、観察することも兼ねて取り組むようにすることを伝えた。

2-3 知識を確認するための演習の準備

授業6時間目には後半で取り組む演習のために、資料2の筆者作成のモデルを示して取り組むべき内

【資料3】

2023年度 社会 出題レポートその②（本番読み原稿）の例

◎班 学籍番号△△△ 氏名 三藤 あさみ

※前回提出の「クイズ作問その①レポート」を参考にして完成させましょう。

1 出題内容：4年 単元（1）都道府県（以下第2章第2節において「県」という。）

2 ※クイズは聞いているだけでわかるように、一問一答で簡潔な言葉でつくる
出題するときはゆっくりと2回繰り返して読む。

クイズ1：埼玉県は何地方にありますか。 答え：関東地方

クイズ2：2021年に埼玉県の農産物の産出額が全国で一位のものは何ですか。

答え：さいち

3 答えの解説と、教師が理解しておくべき理由（発表用原稿）

※クイズの解説は小学生がわかる言葉を選んで工夫してください。
（ネット記事などそのままの引用では避けてください）

・埼玉県は関東地方の中でも西半分は山岳や丘陵が多く占めているのが特徴です。
・埼玉県の農産物で多くつくられているのはさいちで、今、この産出額は全国で一位です。
その他、ネギやかぶなどもさかんに作られています。東京や神奈川など人口が多い都市のそばなので、輸送が短くて済むため、輸送費が安く済むのが強みです。
また、工業では関東内陸工業地帯の一部で、平らで交通の便がよい土地が多く、繁栄しています。主に自動車や電気製品、機械、食料品などが作られています。川口市の製鉄工場も有名で、ひな人形などの伝統的な産業も県内各地にみられます。

（先生として身に付けておくべき知識について）

この授業をするときには、その小学校のある都道府県全体の地形や主な産業を調べておく必要があります。そして、平野や山地がどのあたりに分布しているか、農業や工業などがどこでさかんなのかなどを調べて理解しておくことが大切です。

※完成したら班の人と共有して、実際に出題するときには同じ答えが重ならないように再度確認調整してください。

※完成した人はわかりやすく発表できるかどうか練習してください。

2-5 学生の様子

教師役、子供役ともに短い時間であっても模擬授業のような雰囲気となりその役割に戸惑いつつも、成りきって進めようと、班ごとに助け合って努力していた。初回の班は5年生の内容の前半の単元を担当した。

1回の発表が終わるごとにそれぞれの立場から振り返りをして、改善した方が良かったことは次の班の人が取組みを試みるようにしてほしい旨を伝えた。

振り返りでは子供役からはまず、先生としての声の大きさや話す速度について「もっと大きな声でゆっくり話さないと伝わりにくいのではないか」という意見が出された。学生としての日常会話と教師が集団に話しかける違いが身をもって感じた様子だった。

回を重ねるごとに課題を見出す力も付いてきて、いつも元気に挙手する子供役ばかりへの指名ではなくて全員がなるべく参加できる体制を考えること、先に挙手した人を優先した方が良くはないかというような気づきがあった。

これらの意見を生かして改善を試みつつ取り組んでいったため、後の発表の班ほど、教師役の学生の発表が充実してきた。

さらに筆者からも「一度指名した児童の答えがもし、誤っていたらどのように応答するのか、『単に違います。次の人どうですか』と言って指名すれば良いのだろうか」と投げかけた。今後、教育実習等で実際に起こりそうなことについて考える良い機会であると思うからだ。

3 成果について

3-1 振り返りレポート等の分析

授業の第1回目で行った授業の振り返り^{viii}に「小学校・中学校・高等学校で学習した社会科で好きだった内容、印象に残っている内容は何か」という項目を設けた。

「好き」として多くあげられたのは歴史に関する内容だった。興味をもった時代や事象についてはそれぞれであったが、共通していたのは授業で扱われた教材への興味に興味をもったことである。授業中に視聴した映画やNHK教育テレビ製作の動画、先生が直接話してくれた歴史人物のエピソードなどについての記憶が明確な人ほど、学びの楽しさにつながっていたようである。特に近代以降の学習について自分たちが生活している今とのつながりを見出した人は強く印象に残っているようだ。

次いで、中学校の公民的分野や高等学校での政治・経済の学習で、少子高齢化に関することや円高、円安など貿易などに関するものが多くあげられた。これらの教材から、選挙の投票に行くことが大切で、自分たちの将来の生活に直結していることなどを実感した人ほど興味関心が高くなったようだ。

「全体的に苦手、嫌いだった」との回答が約2割を超えていて、理由の多くは人物や年号の暗記が苦手、学びの意義も見出せないとのことだった。

このように、小学校・中学校・高等学校で具体的な事象から自身との関係を実感したり、今後の自身の社会生活にも必要性を感じたりした場合に興味、関心が高くなるようである。

その当時の先生方はそれぞれの事象の背景や学ばせる意義を十分に考え、時間をかけて教材研究をされたことだろう。また、当時の生徒たちが自身との関連を見出すために必要な活動等も取り入れて思

考できるように工夫をされていたのではないかと推測している。

子供たちが社会科を好きになる授業をつくるためには幅広く、そして深い知識をもっておくべきである。その一つの手段として大学の授業においてもそのための手立てを含めた実践的な指導内容が必要だと感じている。

3-2 子供役として考えたこと

クイズ出題は5班に分かれて行ったので合計5回行った。そのうち4回は子供役として出題されたクイズの解答者となる。小学校の教科用図書に掲載されていることが中心の内容なので、自身も既習の内容が多いはずだが、改めて問われると瞬時には答えられないことが多いことに気づき、知識を今のうちに思い出しておく必要性を感じた学生が多かった。

3-3 教師役として考えたこと

クイズ大会の回を重ねるごとに、教師役の発表方法や発声、表情なども評価できるようになり、自身が発表する際にはさらに工夫をしようとする姿勢が見られた。教師が子供に問いかけるという設定をしたことで、自分たちの発表方法や振る舞いについて振り返る機会となったようだ。

授業の最終日に行った振り返りでは、授業づくりを行うためには単なる理解を思い出すのではなくて、「その事象の起きた背景や関連する事象についても幅広く理解しておくことが大切だ」ということに気づいた学生が多かった。

また、重要だと思う事象をクイズにして、その理由も説明をするために、その事象について吟味したため深く理解する機会にもなったようだ。

いずれにしても、教師が身につける知識は幅広く、常に時事的な事象とも関連づけておくことの重要性にも気づけたようだった。

また、児童役と教師役両方を体験したことで視野が広がり、今後、教師になるための準備としてさまざまな授業を真剣に受講していこうという自覚がもてた学生も増えたように感じている。

4 考察

4-1 今後の社会科指導について

小学校では今、Society 5.0 時代の到来や予測困

難な時代に備えて、教員は ICT の活用方法を理解し、指導に生かすことも期待されている。

社会科教育については、昨今の新しい教育の取組に関する事で話題になることは少ない。しかし社会科の目標には「社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養う」ことが示されている。これは現在起きている社会事象について子供たちが意識を向けて、その状況を自身でよりよいものにしていこうとする意欲を育むことが含まれている。

これは、他の教科より増して、人として社会生活を営むすべての基となる価値観を育成する重要な役割を担う教科であると思う。教師はこのことを自覚して指導する必要がある。そのためにはまず、指導者として社会事象に常に興味をもち、知識を客観的で正確に捉えるようとする習慣をもつことが大切だと思う。これは教師になる前の養成段階から時間をかけてその方法とともに身に付けることが必要だろう。それが、資料1にあげられている指標の力を付けることに結びつくのではないかと考えている。

4-2 今後の課題

社会が激しく変化している現在、どの教科も授業づくりや指導方法の変革が求められている。しかし、教師が取り組める時間は限られているため、優先順位を決めて取り組む必要がある。

前出の答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」の中で「本来であれば家庭や地域でなすべきことまでが学校に委ねられることになり、結果として学校及び教師が担うべき業務の範囲が拡大され、その負担が増大」していることが課題とあげられている。増大している負担の内容を早急に具体的に示す必要があるだろう。その中でも学習指導については教師の大きな役割として、今後さらに充実させていくことが求められると思う。

ⁱ 「埼玉県 校長及び教員としての資質向上に関する指標」について
chrome-extension://efaidnbmninnipceajpcgglefndmkaj/https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/122872/r5_shihyou_kyouyu.pdf 2023.12.18 閲覧
ⁱⁱ 埼玉県のHP 県政情報・統計 > 人事・職員 > 採用情報 > 埼玉県内の教職員を目指す方へ > 募集情報

報 > 公立学校教職員採用選考試験 > 令和7年度埼玉県公立学校教員採用選考試験(令和6年度実施)
「令和6年度埼玉県公立学校教員採用選考試験結果」

chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcgklclevin
dmkaj/https://www.pref.saitama.lg.jp/documents
/243339/r6-sikennnkekka.pdf 2023年12月20日
閲覧

iii 文部科学省によれば、今年度(平成5年度)の全国の小学校新任教員の採用倍率は2.3倍で、4年連続で過去最低を更新した。令和5年12月26日 朝日新聞朝刊

iv 「令和6年度埼玉県公立学校教員採用選考試験選考方針(小学校等教員・中学校等教員・養護教員・栄養教員)」参照

v 文部科学省『小学校学習指導要領解説』社会編平成29年 p.17

vi 同上 p.18

vii 同上 p.18

viii 第1回目(2023年9月20日)の授業で当日出席者54名が回答した。